

日韓両言語における漢語動詞の「負の転移」をめぐって

— 2字漢語動詞を中心に—

尹 亭 仁

In this paper, I examine the correspondence of two-syllable Chinese verbs between Japanese (VN-suru) and Korean (VN-hada). Special attention is given to the 'negative transfer' in the correspondence of Chinese verbs between both languages.

I found that there are eight types of negative transfers between two-syllable VN-suru and VN-hada. They have interfered with learners' studying in both languages. It is necessary to consider effective methods to prevent these 'negative transfers.'

However, a quantitative measure of the ratio of these Chinese verbs in the lexicon of the two languages has not been performed. I propose a five part methodology to address the urgent need for data on Chinese verbs based on vocabulary research.

キーワード：韓国語，日本語，2字漢語動詞，非対応，負の転移

1. はじめに

母語が目標言語の習得を促進することを「正の転移 (positive transfer)」, 母語が目標言語の習得に妨げになることを「負の転移 (negative transfer)」と言う。白井 (2012 : 4) が「母語と外国語が似ているほど正の転移が起こる, そして全体として学習が容易になる。」と述べているように, 共有している多くの漢語が日本人韓国語学習者や韓国人日本語学習者にとって, 上達を促す利点の一つになっていることは確かであろう。

高木 (2013) からの引用になるが, 韓国人日本語学習者の日本語の学習時間は短いという。中国語母語話者の平均学習時間が1240時間だったのに

対して韓国語母語話者の平均学習時間は782時間であったという¹⁾。これには日韓両言語の語順がもたらす正の転移も大きいだろうが、筆者の経験からすると漢語の存在も大きい。

尹亨仁・車香春(2013)では、使用語彙を中心に編まれた『デイリーコンサイズ韓日・日韓辞典』(2009)に見出し語として載っている2字漢語約5,330語を分析し、7割強が「正の転移」に、3割弱が「負の転移」につながるという結果を提示している。この7割強の正の転移には、「방황(彷徨)하다:彷徨する」「수긍(首肯)하다:首肯する」「시인(是認)하다:是認する」なども含まれている。それぞれ「さまよう」「うなづく」「認める」の和語動詞の用法が優勢だが、韓国語と同じ漢語動詞が存在するためである。このような漢語動詞を対象として実際の使用状況を調べると、負の転移の比率が多少上がる可能性はある。一方で、「감심(感心)하다:感心する」「산재(散財)하다:散財する」「실념(失念)하다:失念する」「증장(増長)하다:増長する」のように日本語の中ではわりと使われる漢語動詞だが、韓国ではほとんど使われないため『デイリーコンサイズ韓日・日韓辞典』(2009)に載っていない漢語動詞を正の転移に加えるとこの7:3という比率にまた多少の影響は出る。結局は母数をどうするか、すなわち辞書の規模がどれほど大きいのかによるところもあるが、正の転移と負の転移が7:3というこの比率は1つの目安にはなると思われる。

本稿では尹・車(2013)に提示された韓国語から捉えた漢語動詞の負の転移に更なる分析を加えつつ、その分類に倣って日本語から捉えた際に見えてくる負の転移にはどういう類のものがあるかも取り上げ、これを足がかりに両言語の漢語動詞の習得を促すことのできる有効な取り組みについて考えたい。以下では、次のような順序で論を進める。

第2節では、先行研究について考察する。

第3節では、韓国語から捉えた際に見えてくる負の転移について概観する。

第4節では、日本語から捉えた際に見えてくる負の転移について考察する。

第5節では、今後両言語の漢語動詞の習得を促すことのできる取り組みについて考える。

第6節では、今までの考察をまとめる。

2. 先行研究の考察

日韓両言語の対照研究においては、(1)のような漢語VN（動名詞 [Verbal Noun]、以下VNと称する）の用法の不一致に焦点が集中し、そのずれの説明を試みたものが多い（以下、kは韓国語の文、jは日本語の文を表わす）。

- (1) j. 工事が完了する。
 k. 공사(工事)가 완료(完了)되다.
 k'. *工事が完了하다.²⁾

日本語の「完了する」に対応するのが「完了하다」ではなく「完了되다」なのは、両言語の中級以上の学習者を悩ませている問題の1つとして、日韓対照言語研究の大きなテーマにもなっている。なぜなら、普通「漢語VNスル」に対応する韓国語は「漢語VN하다」であるからである。この不一致については生越（1982, 2001a, 2001b）、門脇（1989）、鷲尾（1998）、尹亭仁（2002）、尹亭仁・車香春（2013）などが取り上げている。

両言語におけるこの相違に初めて注目したのは生越（1982）である。生越（1982）では、「VN-하다形」と「VN-되다形」は動作・状態変化が主語の持つ力によるのか、主語以外の力によるのかによると述べている。しかし、このような捉え方では説明しきれない「VN-하다形」「VN-되다形」も少なくない。本稿の4-7でこれについて取り上げる。

鷲尾（1998）では、本稿の4-7で取り上げる両言語の漢語VNに見られる不一致について、アンケート調査を行ない、その結果を報告している。鷲尾（1998）では、対象として取り上げた漢語動詞「対応する」に対応する韓国語の2つの漢語動詞「대응(對應)하다」と「대응(對應)되다」から共通する一般的傾向は皆無に近いと指摘する。筆者が集めている用例からもこの2つの漢語動詞の用法は拮抗しており、確かに傾向を見出しにくい。しかし、2つの用法の共存には何らかのすみ分けの根拠が隠されていると思われる。今後より多くの用例を用いての綿密な分析が望まれる。

尹亭仁（2002）では、両言語の接辞「-する」と「-하다」「-되다」のそれぞれの意味特徴をこれらの対応関係の一次的要因として取り上げている。そもそも漢語動詞が複合動詞であることを考えると、前項を成す漢語VNの意味特徴も構文と関係があるが、後項を成す「-する」と「-하다」「-되다」の意味的・統語的特徴も関係があるからである。「-する」は「-하다」と違って非能格性も非対格性も有している。「-하다」の非能格性は「-する」

- (3) k. 회의에 참석(參席)하다. 【非対応 2】
 j. 會議に出席する。
- (4) k. 가격을 인상(引上)하다. 【非対応 3】
 j. 値段を引き上げる。
- (5) k. 질문에 대답(對答)하다. 【非対応 4】
 j. 質問に答える。
- (6) k. 화를 자초(自招)하다. 【非対応 5】
 j. 災いを自ら招く。
- (7) k. 전 생애를 희생(犧牲)하다. 【非対応 6】
 j. 全生涯を犠牲にする。

(2)は韓国語の「2字漢語VN+하다」に「まったく異なる2字漢語+する」が、(3)は「2字漢語+하다」に「類似した2字漢語+する」が、(4)は韓国語の「音読みの2字漢語+하다」に「訓読みの和語動詞」が、(5)は「2字漢語+하다」に「和語動詞」が、(6)は「2字漢語+하다」に「まったく異なる表現」が、(7)は「2字漢語+하다」に名詞形はあるものの、する形がないため、VNに他の述語が加わって対応する場合である。

「韓日辞典」ではこのような不一致を見せる漢語動詞が1100語ほど確認された。これを語数の多い順で示すと(8)のようになる。

(8)韓国語から見る漢語動詞の負の転移の内訳

【非対応 6】 > 【非対応 5】 > 【非対応 2】 > 【非対応 4】 >
 【非対応 3】 > 【非対応 1】

比率からすると、(7)のように韓国語の2字漢語+하다に日本語は名詞形しか対応しない【非対応 6】が最も多く4割以上を占めている。「수제(手製)하다」「초판(組版)하다」「초산(初産)하다」「투망(投網)하다」などに対応する日本語は名詞形のみであるが、音読みではないため、【非対応 3】に分類されている。このように、非対応の性格が重なっているため優先した特徴によって分類が異なる漢語動詞もある。2番目に多いのは、(5)のように「2字漢語+하다」にまったく異なる表現が対応する【非対応 5】で、全体の3割以上を占めている。「はじめに」の方にも取り上げたが、辞書に見出し語として載ってはいるものの、使用語彙としてはもちろん理解語彙としても機能していないと思われる漢語VNが少なくない。

今後、普通は漢字を用いない韓国語において【非対応5】は増えると思われる。これは日本語との関連で次節の4-5で取り上げる。

3-2 漢語動詞と和語動詞の共存

尹・車(2013)で対応する漢語動詞が「一応」あるため、「正の転移」に分類された(9)(10)も実際の場面では【非対応4】につながる可能性がある。(9)の場合、どういう文脈で漢語動詞が好まれ、どういう文脈で和語動詞が好まれるかについて、多くの用例の分析に基づいた総合的な考察が必要である。

(9) 거부(拒否)하다	拒否する・拒む
단념(斷念)하다	斷念する・諦める
단련(鍛鍊)하다	鍛鍊する・鍛える
도전(挑戦)하다	挑戦する・挑む
보완(補完)하다	補完する・補う
복수(復讐)하다	復讐する・仕返しする・リベンジする
실망(失望)하다	失望する・がっかりする
양보(讓歩)하다	讓歩する・讓る
억제(抑制)하다	抑制する・抑える
연결(連結)하다	連結する・繋ぐ
유행(流行)하다	流行する・はやる
주저(躊躇)하다	躊躇する・ためらう
질투(嫉妬)하다	嫉妬する・妬む
착각(錯覺)하다	錯覺する・勘違いする
철거(撤去)하다	撤去する・立ち退く
추진(推進)하다	推進する・押し進める
축하(祝賀)하다	祝賀する・祝う
치환(置換)하다	置換する・置き換える
함의(含意)하다	含意する・含む
회피(回避)하다	回避する・避ける…

さらに、(10)の漢語動詞は日本語母語話者にとって理解語彙として機能しているかについての調査も必要である。これは韓国人日本語学習者のためのみならず、外国人日本語学習者にも必要なものなので外国人に対する日本語教育の観点から取り組む必要があると思われる。

(10) 동경(憧憬)하다	憧憬する・憧れる
방황(彷徨)하다	彷徨(ぼうぼう)する・彷徨(さまよ)う
수긍(首肯)하다	首肯する・うなづく
시인(是認)하다	是認する・認める
신음(呻吟)하다	呻吟(しん)する・呻く・唸る
퇴색(褪色)하다	退色する・色褪せる
포착(捕捉)하다	捕捉(ほうとく)する・捉える
함축(含蓄)하다	含蓄する・含む…

(9)(10)の漢語動詞は韓国語としては使用頻度が低くないと思われる。そのため、韓国人は日本語を学習する際に、負の転移を起こしやすくなる。また日本語を母語とする学習者に韓国語を教える際に、どちらの動詞を優先的に提示すべきか、これのための判断材料も必要である。韓国語と同じ漢語動詞を優先して、理解語彙でもない場合学習者を混乱させるきらいさえ否めない。

ここまで、日韓両言語の漢語動詞の対応において、韓国語から見えてきた「負の転移」について概観した。この負の転移につながりうる漢語動詞は約5,330語を母数にした場合、約3割ほどである。この数値は1つの目安で、実際の使用状況を調べると上がる可能性もありうる。両言語における漢語動詞の使用実態の調査が急がれる。

3-3 頻度の問題

日韓両言語において負の転移につながる可能性のある漢語動詞でも、言うまでもなく使用頻度に差はある。しかし、大学4年間の韓国語教育の中で、漢語動詞が何語必要で現在何語ほど用いられているのかも把握できていない現状から、これの調査などはさらに先のことになる。韓国語テキストなどにおける漢語動詞の使用状況については5-1で取り上げる。

外国語学習において、もっとも有効的な学習法は「繰り返し」である。繰り返しその表現を使うこと以外身につける方法はない。特に、両言語の場合、漢語は理解語彙と使用語彙とのギャップが大きい。筆者の経験でも、例えば韓国語にもあるため、「猜疑する」「上梓する」「相殺する」「懺悔する」「嗜好する」などを新聞などで接した際に意味は分かったが、読めなかったため、知っているとは思えなかった。また、「煮沸する」「挨拶する」「勘当する」「堪忍する」「翻弄する」などは韓国語にないため、正確な意

味が捉えられなかった。

日本人韓国語学習者においても同じことが起こると思われる。しかも、韓国語は漢字表記ではなく主にハングルでの表記になっているため、学習者にとって負担はより大きい。

負の転移の漢語動詞は、正の転移の語より少ない。しかしこれは語数の問題として捉えてはいけない部分がある。負の転移の漢語動詞の場合、意味を把握し、用法を理解し、文脈や場面にふさわしい使い方をするまで時間がかかる。これらは試行錯誤を経て身についてくるものなので、学習者の努力も必要であるが、適切な教材や指導が不可欠である。どの漢語VNをどのレベルで提示すべきか、1つの指針を得るためにも漢語動詞に対する頻度調査の資料が必要である。この問題も含め、第5章で取り組むべき方法について考えたい。

今後負の転移を最小限にする、すなわち学習者の負担を減らし、正の転移を生かすにはどういう取り組みが必要なのかを考えるためにも、韓国語だけでなく日本語から捉えた際に見えてくる負の転移についても考察する必要がある。

4. 日本語から捉えた際に見えてくる漢語動詞の負の転移

上では、韓国語から捉えた際に見えてきた漢語動詞の負の転移について概観した。その際の負の転移の分類に従い、日本語から見えてくる負の転移について、その用例とともに見てみよう。

4-1 【非対応1】の場合

【非対応1】は、(11)のように「2字漢語+する」に「他の2字漢語を含む하다動詞」が対応する類である。

(11) 挨拶する	인사(人事)하다
一浪する	재수(再修)하다
遠慮する	사양(辭讓)하다
工夫する	궁리(窮理)하다
口外する	발설(發說)하다
支度する	준비(準備)하다
邪魔する	방해(妨害)하다
返事する	대답(對答)하다

<u>勉強</u> する	<u>공부</u> (工夫)하다
<u>油断</u> する	<u>방심</u> (放心)하다…

このタイプの非対応の漢語動詞がどれほどあるかは今のところ明らかではないが、両言語の学習者はそれぞれの言語の漢語動詞の用法に引っぱり張られ、「母語の干渉」を起こしやすい。日本語学習者でもある筆者は常にこの違いに注意を払っている。

「挨拶する」「勉強する」など初級レベルで学習する漢語動詞の非対応を見て、他にどのような漢語動詞があるかを気にしない学習者はいないだろう。(11)のように、一度に提示する必要はないが、学習のレベルに合わせて、また「支度する」「邪魔する」のように日常生活の中でよく用いられる漢語動詞は早い段階で提示し、使い慣れてもらう必要がある。正の転移の漢語動詞と違い、使いこなすまで時間がかかるからである。

4-2 【非対応2】の場合

【非対応2】は、(12)のように「2字漢語+する」に「1字だけ異なる漢語を含む」類である。2字漢語VNの中で1字だけ異なる漢語を用いるため、運用において混乱が生じる。【非対応1】と同じく使いこなせるまで時間と注意が必要である。

(12) <u>苦渋</u> する	<u>고뇌</u> (苦惱)하다
<u>苦勞</u> する	<u>고생</u> (苦生)하다
<u>降参</u> する	<u>항복</u> (降伏)하다
<u>出社</u> する	<u>출근</u> (出勤)하다
<u>出場</u> する	<u>출전</u> (出戰)하다
<u>焼香</u> する	<u>분향</u> (焚香)하다
<u>入居</u> する	<u>입주</u> (入住)하다
<u>服毒</u> する	<u>음독</u> (飲毒)하다
<u>返答</u> する	<u>대답</u> (對答)하다
<u>弁解</u> する	<u>변명</u> (辯明)하다
<u>用心</u> する	<u>조심</u> (操心)하다
<u>冷遇</u> する	<u>냉대</u> (冷待)하다…

【非対応1】および【非対応2】は両言語において裏表に見えがちだが、(13)のようにそうでもない場合もある。

(13) 祈禱する	a. 기도(祝禱)하다	b. 기구(祝求)하다
-----------	-------------	-------------

起床する	a.기상(起床)하다	b.기침(起寢)하다
急募する	a.급모(急募)하다	b.급구(急求)하다
参加する	a.참가(参加)하다	b.참석(參席)하다
落胆する	a.낙담(落膽)하다	b.낙심(落心)하다…

(13a)はそれぞれ日本語に対応する同じ漢字の漢語動詞であるが、(13b)も(13a)の類義語として日本語に対応している。すなわち、対応が1:1ではなく、1:2の場合もあるのである。「参加する」「落胆する」のように使用頻度の高い漢語動詞については学習者に両方を提示し、違いと用法を覚えてもらう必要がある。

4-3 【非対応3】の場合

韓国語において【非対応3】は、(4)のように「2字漢語+하다」に「訓読みの和語動詞」が対応する類であるが、日本語からこれに相当する漢語VNは見当たらなかった。この類の語は明治以降日本語から借用された(門脇1982:52参照)。日韓両言語における漢語動詞のデータが整備されたら、このように、歴史的な観点からの考察も必要であると思われる。

4-4 【非対応4】の場合

【非対応4】は、(14)のように「2字漢語+する」に日本語の和語に準ずる韓国固有語が対応する類である。

(14) 炎上する	불타오르다
堪忍する	참다
参入する	뛰어들다
辛抱する	참다
承知する	알다
上達する	늘다; 향상(向上)되다
頂戴する	받다, 언다
白状する	불다; 자백(自白)하다 ³⁾ …

(15)は韓国語の固有語から派生された「-하다」動詞である。

(15) 見物する	구경하다
心配する	걱정하다
都合する	마련하다…

4-5 【非対応5】の場合

【非対応5】は、(16)のように「2字漢語+する」に対応する韓国語がないため語義が動詞句または説明になっている類である。

(16) 横転する	옆으로 넘어지다
冠水する	물에 잠기다
散水する	물을 뿌리다
実見する	실제로 보다
出店する	가게 [점포] 를 새로 내다
帯出する	비치된 물건을 무단으로 가지고 나가다
堪能する	충분히 만족하다
重宝する	유용하게 잘 쓰다
盗撮する	카메라로 몰래 찍다
抜糸する	실을 뽑다
文通する	편지를 주고 받다
返金する	돈을 돌려주다 ⁴⁾
迷走する	정해진 길로 가지 않다...

特に、【非対応5】の場合、学習者は漢字からある程度意味を読み取ることができ、読み方の問題も含め、実際には簡単に使いこなせない。用法に慣れるためには、多くの用例に触れ、実践を繰り返す以外に秘策はないと思われる。漢語動詞の場合、学習者にとって理解語彙と使用語彙のギャップが大きいため、繰り返しの学習は重要である。

4-6 【非対応6】の場合

【非対応6】は、(17)～(19)のように「2字漢語+する」に韓国語は名詞形のみがある類である。(17)は「2字漢語+する」に名詞形はあるものの、하다形がないため、漢語に他の述語が加わって対応する場合である。韓国語から日本語を捉えた時に、この類の非対応がもっとも多かったが、日本語からの数値はまだ得られていない。

(17) 飲食する	음식(飲食)(×하다)	음식을 먹다
影響する	영향(影響)(×하다)	영향을 미치다
傾斜する	경사(傾斜)(×하다)	경사가 지다
故障する	고장(故障)(×하다)	고장 나다
勝負する	승부(勝負)(×하다)	승부를 겨루다

悲鳴する	비명(悲鳴) (×하다)	<u>비명을 지르다</u>
分量する	분량(分量) (×하다)	<u>분량을 재다...</u>

(18)は語数としてはそれほど多くないが、「2字漢語+する」に名詞形はあるものの、他の漢語動詞が対応する類である。(19)は「2字漢語+する」にまったく異なる表現が対応している。(19)は【非対応5】と重なる部分がある。

(18) 始末する	시말(始末) (×하다)	처리(處理)하다
示談する	시담(示談) (×하다)	합의(合意)하다
(19) 紅葉する	홍엽(紅葉) (×하다)	빨갱게 물들다
死生する	사생(死生) (×하다)	살고 죽다
成人する	성인(成人) (×하다)	성년이 되다
絶句する	절구(絶句) (×하다)	할 말을 잇다, 말문이 막히다
宅配する	택배(宅配) (×하다)	집에까지 배달하다
汎用する	범용(汎用) (×하다)	여러 가지 용도로 널리 쓰이다
萌芽する	맹아(萌芽) (×하다)	싹트다...

(17)～(19)は韓国語に見られる【非対応6】も含め、どういう漢語VNがそれぞれ接尾辞「-하다」や「-する」と結合できるか⁵⁾には、VNの語構成やVNが持つ意味的特徴などが関わっている。このようなVNがどれほどあるかは、日韓辞典などの分類・分析を待たなければならない。

4-7 【非対応7】の場合

【非対応7】は、(1)に提示した問題で、(20)のように「2字漢語+する」に「2字漢語+하다」ではなく「2字漢語+되다」が対応する類である。しかし、これらの漢語VNが接尾辞「-되다」と結合するかどうかの判断は辞書によって区々である。(20)は『東亜新国語辞典』(2004)が「VN-되다」のみを提示している場合である。

(20) 汚染する	오염(汚染)되다
激昂する	격양(激昂)되다
紅潮する	홍조(紅潮)되다
枯渴する	고갈(枯渴)되다
混線する	혼선(混線)되다
失踪する	실종(失踪)되다
充血する	충혈(充血)되다

熟練する	숙련(熟練)되다
発覚する	발각(發覺)되다
麻痺する	마비(痲痺)되다
矛盾する	모순(矛盾)되다…

『高麗大國語大辭典』(2009)の場合, 上記の(20)から「오염(汚染)되다」「고갈(枯渴)되다」「실종(失踪)되다」は「VN-되다」のみならず「VN-하다」にも派生できるとし, 例を挙げている。「VN-되다」にしか派生できない漢語動詞として(21)を挙げている。

(21) 감염(感染)되다	感染する
감전(感電)되다	感電する
결렬(決裂)되다	決裂する
고착(固着)되다	固着する
공통(共通)되다	共通する
괴리(乖離)되다	乖離する
굴절(屈折)되다	屈折する
무산(霧散)되다	霧散する
풍화(風化)되다	風化する…

筆者の語感だと, いずれも「VN-되다」になる。これらは筆者が編者として関わった『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)には, いずれも「VN-되다」として提示されている。

この不一致は, 韓国語の中に自他両用動詞とは違う, 同じ漢語VNを語幹とし自動詞の接尾辞「-하다」とも「-되다」とも結びついて, 同じく自動詞になる漢語動詞があるからである。2つの派生形が存在する主な理由は, 先行研究でも取り上げたように, 接尾辞「-하다」は接辞「-する」に比べ非能格の性格が強いからである。そのため, 意志性や運動性の意味を有していないVNには接続できない。その場合は非対格の性格を有する接尾辞「-되다」が用いられる。そのため, 辞書には(22)のように提示されるのである。

(22) 감염(感染)	名	하自	되自
경색(梗塞)	名	하自	되自
경직(硬直)	名	하自	되自
난파(難破)	名	하自	되自
무산(霧散)	名	하自	되自

(22)のような漢語動詞が今回の簡単な調べ(主語が意志性を持っていない非能格自動詞をランダムに選び, 韓国の辞書で調べる方法)だけで200個以上確認できた。韓国語の辞書を対象に正式に調べると相当な数になると思われる。この【非対応7】は漢語動詞の自他および使役と受身⁶⁾といった, 両言語の動詞体系にまで波及する問題であるため, 説明と解明が急がれる。これは, 韓国語からより日本語から捉えた際に見えてくる非対応であるため, 日韓対照言語研究の早い段階から注目され, 多くの論文で議論が交わされた。しかし, これには両言語の形態論, 語彙論のみならず統語論の問題が関わっているため, 全面的な議論にまでは至っていないのが現状である。頻度の高い動詞を以下に参考として挙げておこう。

- | | | | |
|------|-------------|-------------|------|
| (23) | 긴장(緊張)하다/되다 | 緊張する | |
| | 만료(満了)하다/되다 | 満了する | |
| | 무산(霧散)하다/되다 | 霧散する | |
| | 붕괴(崩壊)하다/되다 | 崩壊する | |
| | 성립(成立)하다/되다 | 成立する | |
| | 소멸(消滅)하다/되다 | 消滅する | |
| | 수축(収縮)하다/되다 | 収縮する | |
| | 악화(悪化)하다/되다 | 悪化する | |
| | 안정(安定)하다/되다 | 安定する | |
| | 위축(萎縮)하다/되다 | 萎縮する | |
| | 좌절(挫折)하다/되다 | 挫折する | |
| | 파열(破裂)하다/되다 | 破裂する | |
| | 흥분(興奮)하다/되다 | 興奮する… | |
| (24) | (名詞-에) | 감염(感染)하다/되다 | 感染する |
| | (名詞-에) | 경도(傾倒)하다/되다 | 傾倒する |
| | (名詞-에서) | 고립(孤立)하다/되다 | 孤立する |
| | (名詞-과) | 공통(共通)하다/되다 | 共通する |
| | (名詞-과) | 관련(關聯)하다/되다 | 関連する |
| | (名詞-에) | 당선(當選)하다/되다 | 当選する |
| | (名詞-과/에) | 대응(對應)하다/되다 | 対応する |
| | (名詞-에) | 도착(到着)하다/되다 | 到着する |
| | (名詞-에) | 동화(同化)하다/되다 | 同化する |
| | (名詞-에) | 밀집(密集)하다/되다 | 密集する |

(名詞-으로)	변색(變色)하다/되다	変色する
(名詞-으로)	분열(分裂)하다/되다	分裂する
(名詞-에)	소속(所屬)하다/되다	所属する
(名詞-과/에)	직결(直結)하다/되다	直結する
(名詞-으로)	진전(進展)하다/되다	進展する
(名詞-으로)	진화(進化)하다/되다	進化する
(名詞-으로)	파생(派生)하다/되다	派生する
(名詞-에/으로)	편입(編入)하다/되다	編入する
(名詞-에)	합류(合流)하다/되다	合流する
(名詞-에)	해당(該當)하다/되다	該当する
(名詞-으로)	확산(擴散)하다/되다	拡散する…

(23)と(24)の違いは、(24)は漢語VNの内部にもう1つの項を持っている。この場合は、(23)より「VN-되다」の用法が優勢である。それは何より、尹亭仁(2005)で指摘されたように、接尾辞「-되다」はそもそも2項を有する動詞「되다」から派生したからである。そのため、「N-과/에/에서/ (으)로 VN-되다」の項構造を取りやすいのである。

(23)(24)が「VN-되다」への派生に偏りを見せている中で「관계(關係)하다/되다：関係する」「긴장(緊張)하다/되다：緊張する」「대응(對應)하다/되다：対応する」「흥분(興奮)하다/되다：興奮する」などは同じ自動詞構文でありながら「-하다」「-되다」を取る用法が拮抗している。

筆者が集めた小説・新聞などの用例から「소멸(消滅)하다/되다：消滅する」の場合、6：1の比率で「소멸되다」が使われている。「소멸하다」が「소멸해 가고 있다：消滅していきつつある[直訳]」のように進行形を取ると「소멸되다」は不自然な感じがする。「-되다」の意味特徴は非対格性の「状態変化」か「結果状態」であるためである。これは「소멸하다/되다」の語感からは見えてこない部分である。「소멸해 가고 있다」が成り立つ背景には、「낙하(落下)하다」「멸망(滅亡)하다」「사망(死亡)하다」「상승(上昇)하다」「하락(下落)하다」のように、非対格自動詞なのに「-하다形」しか取らない漢語動詞と共通点がある。「-하다」は「성공(成功)하다」「입학(入學)하다」「자립(自立)하다」のように主体の「意志性」のみならず「内部での運動性」も有しているからである。

同じ自動詞として「VN-하다」と「VN-되다」の用法が拮抗している漢語動詞の場合、多くの事例を対象にし、(24)のような助詞との共起関係の

みならず, 「소멸하다/되다」のようにアスペクトの観点からのアプローチも必要である。これは漢語動詞を用いる表現が多くなる中級以上の韓国語教育に大きくはだかる問題でもあるため, 綿密な考察・分析が急がれる。

4-8 【非対応8】の場合

また(25)のように日本語は「漢語動詞」なのに, 韓国語は「漢語形容詞」の場合がある。韓国語の漢語形容詞は, 基本形が漢語動詞と同じく「漢語+하다」であるため, 両者は見分けがつかない。

(25) 一定する	일정(一定)하다
乾燥する	건조(乾燥)하다
傑出する	길출(傑出)하다
謙遜する	겸손(謙遜)하다
混雑する	혼잡(混雑)하다
山積する	산적(山積)하다
散乱する	산란(散亂)하다
充満する	충만(充満)하다
親睦する	친목(親睦)하다
衰弱する	쇠약(衰弱)하다
憔悴する	초취(憔悴)하다
卓越する	탁월(卓越)하다
多言する ⁷⁾	다언(多言)하다
適合する	적합(適合)하다
徹底する	철저(徹底)하다
透徹する	투철(透徹)하다
特定する	특정(特定)하다
伯仲する	백중(伯仲)하다
肥大する	비대(肥大)하다
不足する	부족(不足)하다
奔走する	분주(奔走)하다
満足する	만족(満足)하다
密集する	밀집(密集)하다
密接する	밀접(密接)하다
優越する	우월(優越)하다

乱暴する	난폭(亂暴)하다
類似する	유사(類似)하다
老朽する	노후(老朽)하다
老衰する	노쇠(老衰)하다…

漢語動詞と漢語形容詞は、連体形や終止形においては違いが現われる。数の上ではそれほど多くない⁸⁾が、両言語における品詞分類やアスペクトに関わる問題なので無視できない現象である。(26)～(33)のような連体形の場合、VNに接続する形が「VN-な」「VN-する」「VN-した⁹⁾」「VN-の」のようにVNが持つ意味によって違うことが分かる。そのためにこの【非対応8】は韓国人日本語学習者にとって紛らわしいところがある。韓国語の漢語形容詞は連体形になると「VN-하는」の動詞と違って「VN-한」の形を取る。以下の(26)～(38)の日本語の用例はいずれも『大辞林』(2005)からである。

- (26) j. 謙遜な言い方
k. 겸손(謙遜)한 말투
- (27) j. 人手が不足な時は連絡してください
k. 일손이 부족(不足)할¹⁰⁾ 때는 연락 주세요
- (28) j. 卓越した能力を示す
k. 탁월(卓越)한 능력을 보이다
- (29) j. 円熟した演技
k. 원숙(圓熟)한 연기
- (30) j. ますます肥大する情報産業
k. *점점 더 비대(肥大)한 정보 산업¹¹⁾
→ 점점 더 비대(肥大)해지는 정보 산업
- (31) j. 犯行の手口が類似する事件
k. 범행 수법이 유사(類似)한 사건
- (32) j. 特定の日
k. 특정(特定)한 날
- (33) j. 一定の分量
k. 일정(一定)한分量

さらに、(34)～(36)のような終止形の場合、韓国語は形容詞であるため、時制を帯び得ず基本形が用いられるが、日本語は「VN-ている」になっている。中には(36)のように他動詞として目的語を要求するVNもある。

- (34) j. サービスが徹底している。
 k. 서비스가 철저(徹底)하다.
 (35) j. 空気が乾燥している。
 k. 공기가 건조(乾燥)하다.
 (36) j. 犯人を特定する。
 k. *범인을 특정(特定)하다.

また同じ漢語でも(37)(38)のように韓国語はVNではないため、名詞として単独では用いられないものもある。

- (37) j. 知人の奔走で就職できた。
 k. *지인 [아는 사람] 분주로 취직이 되었다.
 (38) j. 哀惜の念にたえない。
 k. *애석의 마음을 금할 수 없다. → 애석한 마음을 금할 수 없다.

ここまで、日本語の漢語動詞から韓国語の漢語動詞を捉えた時に見えてくる負の転移について取り上げた。両言語の漢語動詞は様々な非対応の様相を呈しており、日本語の場合、漢語動詞といっても状態性を帯びていて形容詞に近い漢語動詞があることも確認できた。また両言語の漢語動詞の対応からそれぞれの言語の内部の違いが浮き彫りになってきた。しかし、この非対応はあくまでも尹・車(2013)に倣って分類したもので、日本語の漢語動詞全体を眺めた時には更なる非対応が現われると思われる。例えば、(39)のように日韓両言語の間で意味がずれている場合もあるが、ここではVNの一部を例示することとまる。

- | | |
|-----------|-----------|
| (39) 会釈する | 회석(會釋)하다 |
| 割愛する | 할애(割愛)하다 |
| 議論する | 의논(議論)하다 |
| 工夫する | 공부(工夫)하다 |
| 上達する | 상달(上達)하다 |
| 脱帽する | 탈모(脫帽)하다 |
| 復調する | 복조(復調)하다 |
| 返却する | 반각(返却)하다 |
| 弁解する | 변해(辯解)하다… |

また「右折する：우회전(右回轉)하다」「左折する：좌회전(左回轉)하다」「右傾する：우경화(右傾化)하다/되다」「左傾する：좌경화(左傾化)하다/되다」など音節が異なる場合もある。韓国語の2字漢語からは「불

효(不孝)하다: 親不孝する」「효도(孝道)하다: 親孝行する」, 「치장(治粧)하다: 身支度する」が見られたが、いずれも漢語ではなく混種語からの派生となり、漢語動詞という本稿の分析の対象からはみ出てしまう。ここに両言語の漢語動詞における線引きの難しさがある。単純に2字漢語は2字漢語と対応しないのである。これに3字漢語動詞、4字漢語動詞の様子が加わると混乱はさらに増す¹²⁾ので、日韓両言語において漢語動詞が占める比重を考えると漢語動詞のデータの整備を急がざるを得ない。

5. 日韓両言語の漢語教育に必要な取り組み

上記で取り上げた両言語の漢語動詞における様々な負の転移を最小限にするためにはどういう取り組みが必要なのかについて考えざるを得ない。また、日韓両言語の学習者は一体何語の漢語VNを覚える必要があるだろうかという疑問もわいてくる。これについての答えは今のところ出ていないと思われる。教育上何語程度必要かは学習者にとっては1つの目標として気になるところでもある。漢語動詞は学習が進むにつれ、頻出するが、レベルの高い学習者は両言語の文法の知識を知っているため、この問題はただの語彙力の問題、すなわち個別に覚えていくものとして認識していると思われる。実際筆者も個人の問題として日本語の学習を続けているが、高さを知らない山を黙々と登るより標高何千メートルの山の中で、今どの辺にいるかを知ると目標意識も高くなる。以下では、そのための取り組みについて考えたい。

5-1 「正の転移」「負の転移」につながりうる漢語動詞のリストの作成

『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)の「韓日辞典」からは約5,330語(全体が約48,000語)の「2字漢語+하다」動詞が、「日韓辞典」からは約3,400語¹³⁾(全体が約30,000語)の「2字漢語+する」動詞が確認できた。それぞれ全体の語数の11.1%と11.3%を占めている。全体の語数の違いがあるものの、占める割合はさほど変わらない。「韓日辞典」には、全体の語数が多い分、使用語彙のみならず理解語彙も多少含まれている。これに、1字漢語動詞(接する, 達する, 論じる…), 3字漢語動詞(再利用する, 表面化する, 問題視する…), 4字漢語動詞(悪戦苦闘する, 臥薪嘗胆する, 自家撞着する…)を加えると漢語動詞は全体語数の30%ほどになると予想される。

尹・車 (2013) の『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009) の「韓日辞典」を対象にした語彙調査によると、日韓両言語において約1,100語(これに日本語から捉え直した【非対応7】の非対応漢語動詞約200語を合わせると約1300語)の漢語動詞が非対応を示している。

これらのリストを学習者にどういう形で、またどのレベルで、何語を提示するかには漢語動詞についての使用状況および頻度調査などが前提条件になってくる。

5-2 語彙調査

両言語において、何語程度の漢語動詞を学習すれば、会話はもちろんのこと、新聞や現代小説、論文の読み書きができるかという目安の提示は必要である。

筆者は現状を参考にすべく、日本で市販・使用されている韓国語の教材を2種類調べた結果、1種類(シリーズ2冊)においては漢語動詞が初級で11語、中級で43語用いられていた。もう1種類の教材(シリーズ3冊)においては漢語動詞が初級で8語、中級で23語、上級で99語用いられていた。筆者は日本で韓国語教材の漢語動詞のこのような低い使用状況に疑問をいだき、ソウルの実績のある有名大学が外国人韓国語学習者のために作った韓国語教材2種類についても調べた。結果は、教材Aがレベル1:22語で、レベル2:26語、教材Bがレベル1:12語、レベル2:16語であった(いずれも名詞形のみを含む)。

日本語教育の現状も参考にすべく、日本で広く使用されている日本語教材『みんなの日本語初級I・II』(2012)を調べたところ、Iが42語(全25課)、IIが78語(全25課)であった(いずれも名詞形のみを含む)。『日本語基本動詞用法辞典』(1989)に載っている基本動詞728語のうち、2字漢語VNは165語で、全体の22.7%を占めている。これに対応する韓国語の2字漢語ハダは144語である。日本語のテキストの場合、『日本語基本動詞用法辞典』(1989)で取り上げた、2字漢語VNの約73%に相当する。韓国語教材における漢語動詞の使用は日本語より少なく、「正の転移」を促すことのできる大きな要素が活用されていないことが分かった。これには、韓国語教材が会話中心に作られる傾向があることが関係していると思われる。この現状から前進するためにも、両言語における教育用漢語動詞の整備が必要である。

筆者は『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)の「日韓辞典」から得られた約3,400語の「2字漢語+する」を叩き台とし、頻度調査を行なうのも1つの方法であると考えている。「愛玩する」「愛蔵する」「隠遁する」「栄達する」「箝口する」「愚弄する」まで教育用漢字に入れる必要はないものの、やはり1つの基準は必要である。『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』(2014)ではタイトル通り2200字の漢字を提示している。また日本漢字能力検定協会が実施する漢字検定試験の場合、12級のレベルが設けられており、高校卒業程度で常用漢字2136語が対象になるのが上から3番目のレベルの2級である。2000語レベルで推移しているこれらの数値も1つの参考になると思われる。

5-3 辞書などでの見出し語の選定および提示の仕方

『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)は、漢語VNを中心に見出し語を載せているため、両言語の対応関係が不十分に示されている。それぞれの提示の仕方を見てみよう。「韓日辞典」の場合は、(39)のようになっている。

- (39) 발명(發明) ㉠ ㉡他 發明.
 발생(發生) ㉠ ㉢自 發生.
 영위(營爲) ㉠ ㉡他 營爲; 營み.
 장수(長壽) ㉠ ㉢自 長壽; 長生き.

このような提示の仕方だと、VN-する形がないことが抜けてしまう。これらはいずれも(40)のようにするのが望ましいが、紙幅の問題など、現実的には簡単ではないと思われる。

- (40) 발명(發明) ㉠ 發明. - 발명(發明)하다 ㉡ 發明する.
 발생(發生) ㉠ 發生. - 발생(發生)하다 ㉢ 發生する.
 영위(營爲) ㉠ 營爲; 營み. - 영위(營爲)하다 ㉡ 營む.
 장수(長壽) ㉠ 長壽; 長生き. - 장수(長壽)하다 ㉢ 長生きする.

または「발생(發生)하다: 發生する」「발명(發明)하다: 發明する」など、「正の転移」に繋がるものは従来通りの記述で、「영위(營爲)하다: 營む」や「장수(長壽)하다: 長生きする」のように「負の転移」につながりやすいVNのみ、詳細に記述するのも1つの方法であろう。「日韓辞典」の場合は、(41)のように提示されている。

- (41) はっせい【発生】 스르하 발생(發生).
 はつめい【發明】 스르하 발명(發明).
 えいい【營為】 영위(營爲).
 ちょうじゅ【長寿】 장수(長壽).

この場合、日本人韓国語学習者は「營為」「長寿」が日本語と同様名詞であると判断しがちである。この場合も「発生する」「發明する」など、「正の転移」に繋がるものは従来通りの記述で、「영위(營爲)하다」「장수(長壽)하다」が하다形を持っていることを提示するための工夫が必要である。

5-4 レベルの策定

レベルに合わせて両言語の学習者に漢語動詞のリストを提示し、注意を促すと教育上の効果は上がる。このためにも、3-3で取り上げたように両言語における漢語動詞の頻度調査が不可欠である。両言語における各種検定試験の既出問題なども参考になるだろう。今後こういうことも視野に入れて語彙調査が行われるべきである。

そうすることによって、両言語における漢語動詞の使用語彙と理解語彙の状況が把握でき、韓国語から捉えた場合【非対応4】による学習者への負担を減らせる。また日本語から捉えた場合【非対応7】の問題を漢語動詞の範囲を絞って取り組むこともできる。両言語における教育用漢語動詞の語数およびそれらに対するレベルの策定は、両言語の教育現場に還元できる有効な取り組みである。

5-5 コロケーション情報の提示

また、(42)のように普段よく用いられるコロケーションも提示できると学習効果はさらに上がると思われる。

- (42) 競売する/경매(競賣)하다 競売にかける/경매에 붙이다
 激論する/격론(激論)하다 激論をたたかわせる/격론을 벌이다
 死闘する/사투(死闘)하다 死闘を繰り返す/사투를 벌이다
 主演する/주연(主演)하다 主演を務める/주연을 맡다
 声援する/성원(聲援)하다 声援を送る/성원을 보내다
 訴訟する/소송(訴訟)하다 訴訟を起こす/소송을 걸다[제기하다]
 騒動する/소동(騒動)하다 騒動を起こす/소동을 일으키다
 破局する/파국(破局)하다 破局を迎える/파국을 맞다

判決する/판결(判決)하다 判決を下す/판결을 내리다…

(42)の場合は、漢語動詞のみならず、VNと共に起する動詞においても意味上・統語上の対応が見られる。しかし、「司会する」に対して「사회(司會)하다/사회를 보다」のように一致しない場合もある。漢語VNにおけるコロケーション情報の提示は、両言語の中級以上の学習者の表現力を向上させ、文脈によってはより自然な表現にもなる。

ここまで、日韓両言語における漢語動詞の習得を促すための5つの取り組みについて提案をした。いずれの取り組みも簡単ではないが、「漢語動詞の共有」という学習上のメリットを生かすためにも必要な作業である。これ以外にも両言語の学習者に上記で取り上げた様々な非対応に気づいてもらうための情報発信が必要である。

6. おわりに

本稿では、尹・車(2013)に倣って日韓両言語の漢語動詞を日本語から捉えた際に見える負の転移について考察した。これにより、日本語からは8種類ほどの非対応の現状が浮き彫りになった。漢語動詞が両言語の語彙の中で占める割合、比重にも関わらず、基本的なデータが整備されていない現状についても問題を提起、そのための5つの取り組みについて具体的に提案した。これらの取り組みは概ね連動している。

日韓両言語に見られる漢語動詞の共有という「正の転移」を両言語の教育現場で生かしつつ、不一致を見せている「負の転移」から予想される「母語の干渉」に効果的に対応するためにも、まずは語彙調査に基づいた教育用漢語動詞のデータの整備が急がれる。

注

- 1 詳細は渡邊(1996)を参照されたい。
- 2 文頭の*は当該の文または漢語VNが成り立たないことを表わす。
- 3 このように、日本語の漢語動詞に韓国語は固有語と異なる漢語動詞の両方が対応する場合もある。どちらを優先するかは、文脈による場合が多い。上に提示した「堪忍する」と「辛抱する」も「참다」以外に「인내(忍耐)하다: 忍耐する」になる場合がある。
- 4 『東亜新国語辞典』(2004)および『標準韓国語大辞典』(2004)では「반금(返金)하다」が見出し語として載っているが、『高麗大辞典』(2009)には載っていない。

- 筆者の語感および韓国人5人(全員大学教育関係者)への調査でも「使わない」という返事のみだった。同じ文脈で使うとしたら「환불(還拂)하다」である。また「발치(拔齒)하다」「만열(滿悅)하다」もそうであるが、この場合は「이를 뽑다[削다]: 歯を抜く」「몹시 기뻐하다: 非常に喜ぶ」が普通である。今後、実生活とかけ離れている漢語動詞の存在をどうするかについて、議論していく必要がある。
- 5 松岡(2004)によると、日本語の場合は動詞性の高い名詞がスルと結びついて複合動詞を形成する。しかし、韓国語の場合日本語と同じ漢字なのに、漢語動詞に派生できないのも少なくない。韓国語にはどういう派生原理が働いているのかを調べるのは今後の課題である。
 - 6 「-되다」は自動詞化に関わる接辞でもあるが、漢語VNの受身に関わる接辞でもある。これについて尹亨仁(2005)を参照されたい。
 - 7 『大辞林』(2005)によると、「多言する」は漢語動詞であるが、対義語の「寡言」は名詞である。対応する韓国語「과언(寡言)하다」「다언(多言)하다」はいずれも漢語形容詞である。また「多作する」は漢語動詞であるが、対義語の「寡作」は名詞である。韓国語「과작(寡作)하다」「다작(多作)하다」はいずれも漢語動詞である。「失点」と「得点する」,「陽刻」「陰刻する」,「正用」「誤用する」も同じである。松岡(2004)は、動詞性の高い名詞がスルと結びついて複合動詞を形成するとしているが、対義語でも異なる場合があるようである。
 - 8 数の上では、2字漢語形容詞は(25)に提示したのもも含めて、50語ほどで、「의기소침(意氣銷沈)하다: 意氣消沈する」などを含めてもそれほど多くはないと思われる。しかし、頻度の高い語が少なくないため、学習者に用法への注意を促す必要はある。
 - 9 「過去形」を指すのではなく、常に「VN-した」の形で用いられている漢語VNを指す。
 - 10 漢語動詞も漢語形容詞も「때: 時」の前に来る場合は活用形が両方とも「VN-할」になる。
 - 11 「점점 더: ますます」という運動性を加える副詞が共起しているため、韓国語は漢語形容詞が使えない。そのため、そこから派生した動詞「비대(肥大)해지다」になっている。
 - 12 3字漢語動詞や4字漢語動詞は別の対応の問題を抱えている。例えば、「長(ちやう)嘆息する」「長(なが)電話する」,「大(おほ)掃除する」「大(だい)活躍する」のように派生において漢語動詞と混種語動詞が混ざっている。3字漢語動詞は「再利用する」「窒息死する」「敵対視する」「表面化する」など、接頭辞や接尾辞が結合してさらに漢語動詞として派生する場合が多いが、「大絶賛」「猛反対」「猛反発」などは『大辞林』(2005)に載っていない。また、4字漢語動詞の場合、「약육강식(弱肉強食)하다: 弱肉強食(×する)」「언행일치(言行一致)하다: 言行一致(×する)」「일망타진(一網打盡)하다: 一網打尽(×する)」「임기응변(臨機應變)하다: 臨機應變(×する)」のような対応関係から「일취월장(日就月將)하다: 日進月歩(×する)」「양자택일(兩者擇一)하다: 二者択一(×する)」のように漢字が微妙に異なる場合、「일맥상

통(一脈相通)하다: 一脈相通する」など、様々な対応関係が見られると予想される。日韓両言語における3字漢語動詞や4字漢語動詞の対応関係を確認するのは簡単ではない。

- 13 日本語には一見したところ漢語に見える「相席する」「会得する」「指図する」「手配する」「両替する」などの混種語もある。この数値に、混種語や「逢引する」「割引する」など和語から派生された語は含まれていない。「相席する」「手配する」「両替する」に相当する韓国語は「환전(換錢)하다」「수배(手配)하다」「합석(合席)하다」の漢語動詞である。このように日韓両言語の立場から取り組まないと見えてこない違いもある。

参考文献

- 生越直樹 (1982) 「日本語漢語動詞における能動と受動: 朝鮮語hata動詞との対照」『日本語教育』48号, pp. 53-65
- (2001a) 「現代朝鮮語の하다動詞における하다形と되다形」『朝鮮文化研究』8, 東京大学大学院人文社会系研究科付属文化交流施設朝鮮文化部門, pp. 94-76
- (2001b) 「하다動詞の하다形・되다形の使い方について—インフォーマント調査の結果から—」『韓日語文学論叢』, 太学社, pp. 533-554
- 門脇誠一 (1982) 「韓国語と日本語の語彙」『日本語教育』48号, pp. 43-52
- (1989) 「日・朝語対照研究—「漢語+する」と「漢語+hada」について—」『北海道東海大学紀要人文社会科学系』第2号, pp. 39-58
- 高木南欧子 (2013) 「韓国語留学生の自然発話に見られる誤用」『神奈川大学言語研究』36, pp. 141-158, 神奈川大学言語研究センター
- 白井恭弘 (2012) 『英語教師のための第二言語習得論入門』, 大修館書店
- スリーエーネットワーク編 『みんなの日本語初級 I・II』(2012), スリーエーネットワーク
- 徳弘康代編著 (2014) 『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』, 三省堂
- 松岡知津子 (2004) 「複合動詞「～スル」を形成する漢語名詞について」『日本語教育』120, pp. 13-22, 日本語教育学会
- 尹亭仁 (2002) 「日本語と韓国語の漢語動名詞の統語範疇をめぐって」『神奈川大学言語研究』25, pp. 117-137, 神奈川大学言語研究センター
- (2005) 「韓国語と日本語のヴォイス構文に関する対照研究—動作主の格標示と構文の生産性を中心に—」東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士論文
- 尹亭仁・車香春 (2013) 「韓国語と日本語の2字漢語動詞に関する一考察—韓日辞典に見られる異同を手がかりに—」『神奈川大学言語研究』36, pp. 1-24, 神奈川大学言語研究センター
- 鷲尾龍一 (1998) 「韓国語漢語動詞における動詞選択の問題—「對應하다, 對應되다」

の場合―』『研究報告(2)先端的言語理論の構築とその多角的な実証(2-A)―ヒトの言語を組み立て演算する能力を語彙の意味概念から探る―』, COE形成基礎研究費, pp. 389-416

渡邊亜子 (1996) 『中・上級日本語学習者の談話展開』, くろしお出版

【辞書類】

<日本語>

小泉保他編 (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』, 大修館書店

松村明編 (2005) 『大辞林』 第2版, 三省堂

尹亨仁編 (2009) 『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』, 三省堂

<韓国語>

李基文監修 (2004) 『東亜新国語辞典』 第5版, 東亜出版社

国立国語研究院 (2004) 『標準韓国語大辞典』

高麗大学校民族文化研究院 (2009) 『高麗大韓国語大辞典』